

平成28年1月

レフェリーレポート

大分県ハンドボール協会 堀川智宏、内海秀昭

下記大会に審判員として参加しましたので、大会期間中のレフェリングや他県レフェリーとの意見交換などで感じたことを記します。

大会名称、期間

第24回 JOCジュニアオリンピックカップ ハンドボール大会（沖縄県）

日程：平成27年12月23日（水）～平成27年12月27日（日）

大会日程、担当試合数

12/23（水）諸会議

12/24（木）予選リーグ 【女子1試合担当】

12/25（金）予選リーグ 【男子2試合担当】

12/26（土）準々決勝 【男女各1試合担当】

12/27（日）決勝戦

審判員会議

- ・レフェリーとしての20の約束を再度確認。
- ・平成27年度 審判員の目標を確認。
- ・競技規則試験（HPで公表されている競技規則問題より25問出題）

ペアの課題、確認事項等

○オフェンシブファウルの判定基準

昨今のディフェンスの評価として、閉じたスペースへの攻撃側選手の飛び込み・突進について、安易にホールディング等のディフェンス側のファウルにしないよう見極めて判定することを意識しています。

ただ、我々ペアの基準では『軽い接触でもオフェンシブファウル（いわゆるチャージング）を判定している』との意見がありました。このことは、別の大会でいただいた意見にもそう感じているチームがあったことから、今後も検討が必要なプレー・判定であると感じています。

○消極的なプレーへの対応

ハンドボールにおいて、攻守交代などゲーム展開の早さは大きな特長の一つであると考えます。よって、攻撃態勢の組み直しや選手の入替わりに大きく時間をとることは、その魅力を減少させるものと考えます。

私たちペアもそのことは強く意識しており、今大会でもその考え方に沿って判断してきました。ある試合では、終了まで残り時間がわずかの場面、2点差リードしているチ

ームの攻撃時に、ボールを持った攻撃側プレイヤーが自陣コートで自陣ゴール側に向かってゆっくりとドリブルを行う場面がありました。我々はそのプレーを『予告無しのパッシブプレー』として判定しました（ターンオーバー）。『明らかに攻撃意思の見えないプレー』は以前に別の大会でも経験していたことから、今大会で迷うことなく判定できたと思います。経験が乏しかった頃には、『パッシブプレーの予告合図』を出して攻撃のスピードアップを促していたかもしれません。

あらためて、審判員の養成には様々な経験と時間が重要であると感じました。

他県レフェリーとの意見交換等

今大会と一緒に参加した他県の上級レフェリーとの意見交換では、よりよい判定・ゲーム運営を行うためには以下のような方法・考え方もあると紹介いただきました。

- 試合終盤のアンフェアなファウルを起こさせないために、レフェリー側からも出来ることがある。チームへのインフォメーションとして、例えばターンオーバーのあとのボールの置き方など、小さな事象であっても序盤であればあえて退場等の罰則を付加する場合がある。
- ターンオーバー時の速攻の場面で、シュートに向かうプレイヤーと並行して守ろうとするディフェンスプレイヤーとの接触プレーを見るために、レフェリーが帰陣をあえて遅らせて選手の後方からみることもある。（接触部分が身体で隠れない方向から）
- ゴールレフェリーの時、サイドシュートの飛び込みに際しては上記と同様に接触部分をよく見るために、アウターゴールライン上の6mライン側よりもゴールに近い方に移動する。これにより、接触部分がよく見えるだけでなく、そこで起こった現象を全体として捉えられる。

大会審判長をはじめともに行動した審判団からいただいた指摘・意見を、我々自身の考え方と照らし合わせて解釈・吸収して、我々自身の審判活動に活かして行きたいと思いません。

本大会に参加する機会をいただけましたので、この経験をお伝えしたく、本レポートを通じて参考の一助にいただければと思います。